

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

### 佐賀市立小中一貫校芙蓉校

5月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

#### ■ 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童・中学校3年生生徒

#### ■ 調査の内容

##### (1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
  - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

##### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

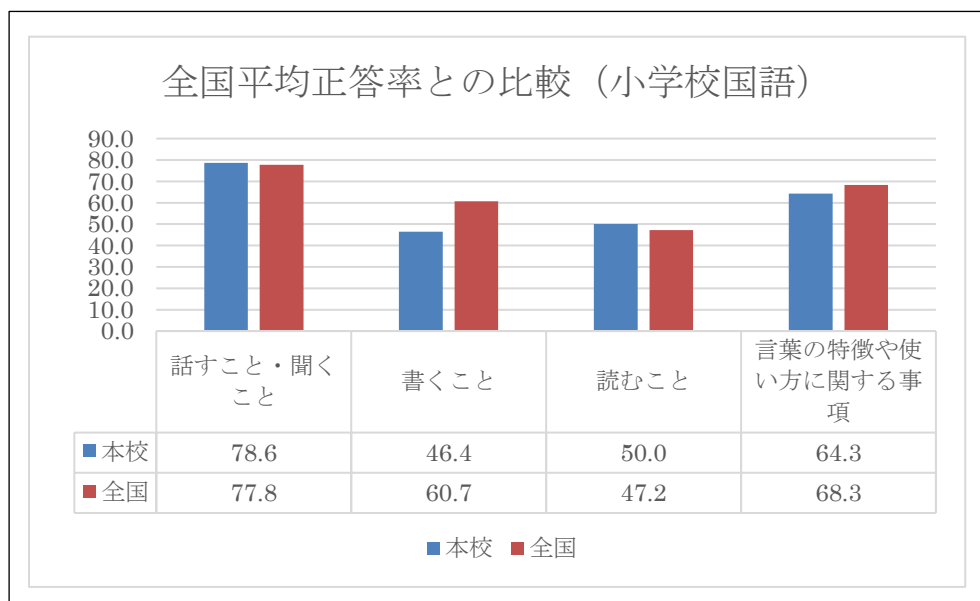
#### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

## ■ 調査結果及び考察 【6年生】

### 1 国語

#### (1) 結果



全国平均を下回る結果であった。4領域のうち2領域で全国平均正答率を下回ったが、特に「書くこと」領域において、大きく下回っている。

#### (2) 成果と課題

今回の調査で、「読むこと」の領域が 2.8 ポイント上回った。普段から、読書や音読をしていることなどの成果が表れていると考えられる。課題は、「書くこと」の領域である。「自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成や展開を考える」問題や「目的や意図に応じて、理由を明確にしながらか自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」記述式の問題では、無解答はないものの全国平均正答率を大きく下回っており、苦手にしてしている児童が多くいる。また、「言語の特徴や使い方に関する事項」において、「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うこと」や「文の中における修飾と被修飾の関係を捉えること」の問題は、全国平均正答率を下回っている。言葉の力を付けることや記述力を高めることが、国語科の力を伸ばすことにつながると考えられる。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

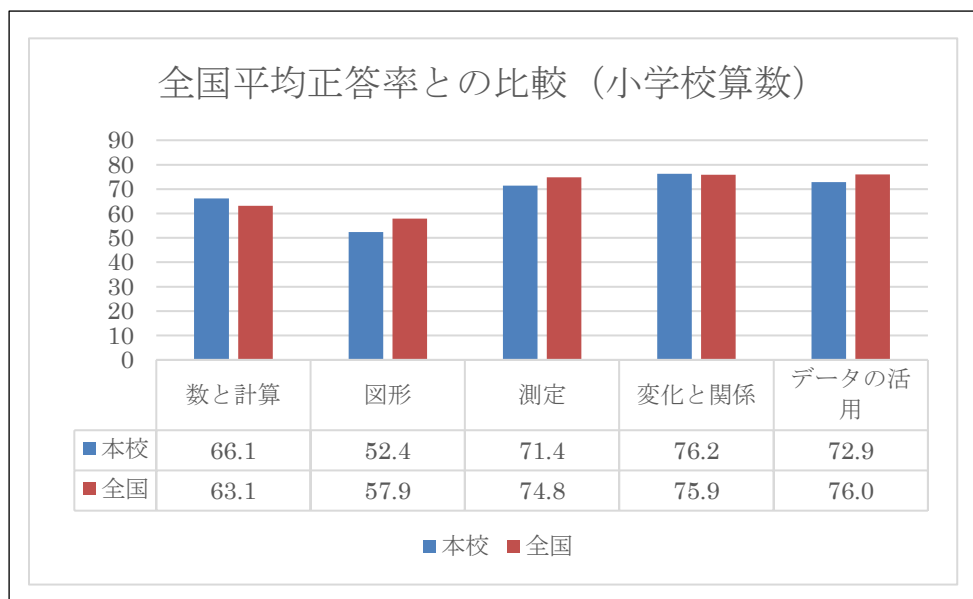
- 子どもが主体的に学ぶことができるように、授業の在り方を工夫し、話し合う活動を通して、より深く学んでいくことができるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらか書く活動を増やし、記述の仕方を指導します。
- 文の中における主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係を捉えることができるよう指導を工夫します。

##### 【ご家庭では】

- 音読が基本になります。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味の理解に役立ちます。言葉の力を付けることや文章を読み、要点や意図を捉えることは、全ての教科の学力向上に不可欠です。毎日、音読を聞いてあげてください。
- 一緒に読書をしたり、お子さんと会話を楽しんだりして、お互いの考えを交流しましょう。考えたことを自学ノートなどに書き表すことができるよう、話題にしてみましょう。

## 2 算数

### (1) 結果



ほぼ全国平均と同等の結果であった。「数と計算」「変化と関係」の領域で全国平均正答率を上回っている。また、「記述式」の問題では、ほとんどで全国平均正答率を下回っている。

### (2) 成果と課題

今回の調査では、「C 変化と関係」領域の「道のりと時間の関係について考察する」問題では、正答率が100%であった。また、「A 数と計算」領域の「示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断する」問題では、全国平均正答率を大きく上回っている。一方で、「速さを求める除法の式と商の意味の理解」や「三角形の面積の求め方についての理解」の問題については、全国平均正答率を下回っている。「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する」問題や「複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて面積の求め方と答えを記述する」問題など、「記述式」の問題では、全国平均正答率を大きく下回っていて、課題が見られる。日々の授業で、自分の考えを図・式・言葉を用いて記述させたり説明させたりすることを継続していくことが大切であると考えられる。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 授業の中で、図や式、言葉に関連付けて自分の考えを書く活動を設定し、論理的に書くことができるよう、記述の仕方を指導します。
- 自分の考えをペアやグループ、全体で、分かりやすく説明し合う、話し合う活動を位置付け、論理的に考える力と表現力を育みます。
- 朝の時間の「チャレンジタイム」に継続して取り組み、記述力を高める指導を行います。活用力へつながる応用問題などにも計画的に取り組ませます。

#### 【ご家庭では】

- ドリルやプリント等の宿題、テストなどに目を通し、お子さんの成長や努力を見付け、励ましや称賛の言葉をかけてください。お子さんが今学習している内容や理解の程度、問題を解くのにかかる時間などに関心をもつことは、子どもたちの「やる気」につながります。
- 学習したことが自分の生活の中につながったとき、算数への興味・関心がさらに高まります。生活場面で算数を使う便利さや面白さを、お子さんと一緒に意識して探してみてください。

### 3 生活習慣や学習習慣に関する調査

#### (1) 結果 《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	85.7%	85.8%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	35.7%	38.3%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	57.1%	55.0%
自分にはよいところがあると思いますか。	57.1%	36.2%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	42.9%	24.4%
人が困っているときは、進んで助けていますか？	50.0%	43.6%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	78.6%	84.1%

朝食・起床・就寝については全国平均とほぼ同等である。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことは重要であるので、家庭と学校が協力して、習慣化を目指したい。

挑戦心や規範意識の項目については、本校の児童は全国平均よりも良好な結果が出ている。

#### 《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	35.7%	31.2%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	0%	11.6%
「2時間以上、3時間より少ない」	35.7%	15.3%
「1時間以上、2時間より少ない」	50.0%	35.6%
「30分以上、1時間より少ない」	0%	24.5%
「30分より少ない」	14.3%	9.5%
「全くしない」	0%	3.5%
新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか。	50.0%	29.8%

家で自分で計画を立てて勉強をしている児童は、全国平均より多い。家庭学習については、「1時間以上、2時間より少ない」児童が、半数である。しかし、1時間未満の児童がおり、家庭学習の時間が短い児童もいる。個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきたい。また、新型コロナウイルス感染症拡大による児童の心の問題も、大切な課題であるととらえている。

#### (2) 改善に向けての取り組み

##### 【学校では】

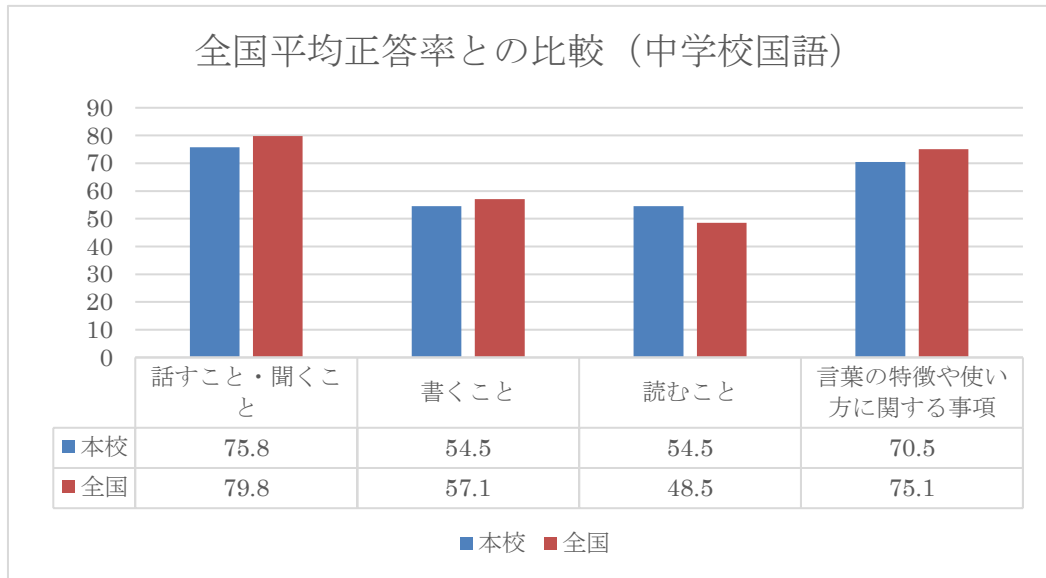
- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示して定着しつつあります。これから中学年にも少しずつ広げていきます。
- 年間3回、全学年で実施する「F u y o夢プロジェクト」週間で、自分の生活・学習習慣を見直し、向上させることにつながるようにしていきます。取り組んだ結果を学級通信等で家庭にお知らせし、家庭との連携を図りながら効果が上がるようにします。

##### 【ご家庭では】

- 「F u y o夢プロジェクト」の項目を家庭でも意識して、普段からお子さんに言葉を掛けてあげてください。また、お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まり、望ましい習慣化が図られていきます。
- 芙蓉校版「家庭学習の手引き」をご覧ください。学習時間のめやすや自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。

## ■ 調査結果及び考察 【9年生】

### 1 国語



#### (1) 結果

全国平均と比べ下回る結果でした。4領域のうち3領域で全国平均正答率を下回りましたが、「読むこと」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。

#### (2) 成果と課題

今回の調査で、「読むこと」が6ポイント上回りました。国語科の「読むこと」はすべての領域の根幹をなす力であり、普段から、読書に親しみ、主体的に考えて読み解く成果が表れていると考えられます。特に大きな課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率 47.7%は、全国平均正答率 56.0 % を大きく下回っており、短答式の 81.8%に比べ苦手としている生徒が多くいます。記述力を高めることは、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の力を伸ばすことにもつながります。読む力をさらに伸ばすためにも、基本となる力である3領域を意識し、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題に対応できるよう、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

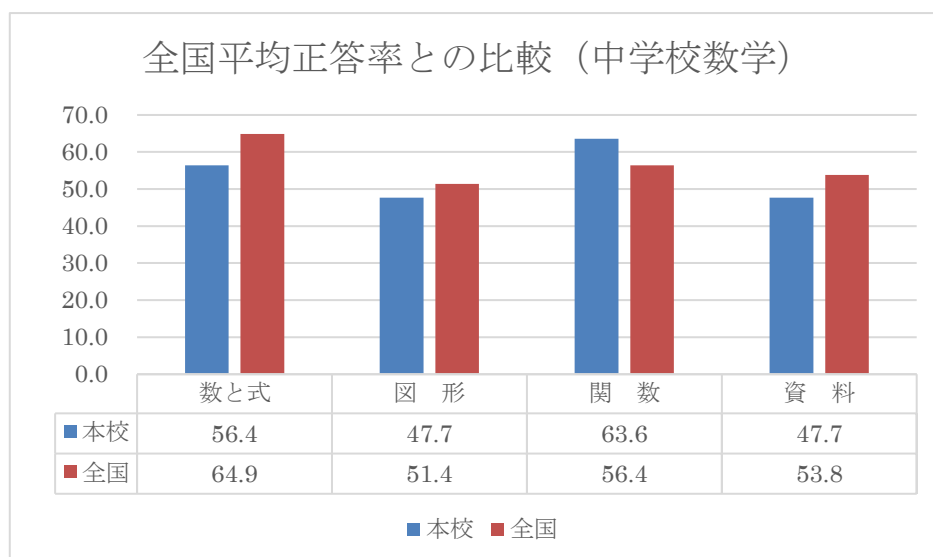
- 生徒が主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、生徒同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます

##### 【ご家庭では】

- 毎週学習課題がありますので、問題を解く時間に自分で考えて解くようにしています。自分で考える時間を大切にするようにさせてください。教科書以外の文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 新聞を読んだり、読書をしたりすることを大切にいきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術・様々な本を読み、数多くの表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。



## 2 数学



### (1) 結果

「関数」の領域で全国平均を7ポイント上回っています。それに対して、「数と式」と「資料の活用」の領域で全国平均を5ポイント以上下回っていました。

### (2) 成果と課題

今回の調査では、「関数」の領域の、関数の意味を理解しているかどうかをみる問題の正答率が全国平均正答率を25ポイント上回っており、授業で繰り返し強調して扱った内容が強く記憶に残っていることが分かりました。対照的に、「資料の活用」の領域の、資料から中央値を求める問題や、ヒストグラムから階級の度数を読み取る問題では、全国平均正答率を下回っており、学習した当時の理解度に対し、十分に定着できていないと思われます。また、6（3）や7（2）、8（3）など、各領域において、数の性質や課題解決の方法について考え方を説明する問題では、無解答の割合がほぼ半数であるなど、問題形式の「記述式」の問題でも課題が見られました。

日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 知識の習得の場面では、基礎・基本の定着のための練習と確認テストを随時行います。また、活用の場面では、思考力を要するような課題を意図的に設定し、グループ活動や発表などを通して、表現する力も併せて身に付けさせられるよう取り組みます。
- 各単元の導入において、単元全体の見通しをもてるような課題設定を行います。
- 授業ごとにワーク2ページを宿題にしています。その際、ただ量をこなすのではなく、どこがどのように出来ていないのか、どのように答えを導いたか、確認するようにしています。

#### 【ご家庭では】

- 毎時間課題を出します。また、授業等で分からなかったところは早期に解決できるように話をしています。家庭学習の方法や学習時間が定着できるように言葉掛けください。また、解決に時間がかかることもあるかと思いますが、丁寧に粘り強く取り組めるように励ましてください。
- 小テストや単元テスト、実力テスト、学期末テストなど様々なテストを実施しています。基礎・基本の定着度をみるもの、活用力をみるものなど、目的に応じて様々です。ご家庭でも、授業の内容やテストでの得点状況などについて、話をされてみてください。

### 3 生活習慣や学習習慣に関する調査

#### (1) 結果 《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	81.8%	81.8%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	63.6%	36.3%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	54.5%	57.6%
自分にはよいところがあると思いますか。	18.2%	34.5%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	27.3%	20.0%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	81.8%	74.3%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	90.9%	81.4%

朝食・起床・就寝については全国平均とほぼ同程度です。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムも概ねできています。中学生の遅刻は見られません。これは家庭の協力なしにはできないことであり、保護者の皆様に感謝します。挑戦心や規範意識の項目については、肯定的な回答をした生徒は全国平均よりも高い結果が出ています。

#### 《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	9.1%	19.4%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	9.1%	12.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	9.1%	29.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	36.4%	34.1%
「30分以上、1時間より少ない」	27.3%	14.1%
「30分より少ない」	9.1%	6.4%
「全くしない」	9.1%	3.5%
新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか。	18.2%	34.6%

家庭学習については全国平均よりも取り組み時間が少ないようです。まだ1時間未満の生徒が3割近くおり、中には全く家庭学習をしていない生徒もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の進め方やFuyo夢プロジェクト週間を活用して家庭学習の意味を生徒に伝えて、家庭学習が習慣化するように指導していきます。また、新型コロナウイルス感染症拡大による心の問題も、大切な課題であるととらえています。

#### (2) 改善に向けての取り組み

##### 【学校では】

- 毎朝15分間（8：15～8：30）、基礎学力の定着を目指し、「各教科のドリル」を行っています。また、家庭学習が定着するように毎日自主学習ノート（自学）を1ページ以上行うように指導しています。
- 放課後学習会を利用し、苦手教科の克服や卒業後の進路への意識付け等、学習への課題意識をもたせるようにしています。

##### 【ご家庭では】

- お子さんと学校での出来事や将来について話す時間を増やしてください。
- ゲーム、テレビ、パソコンやインターネットなどの使い方について約束事を決めるなど、学習に集中できる環境を整えてください。
- 「芙蓉校9年間の家庭学習のすすめ」や「家庭学習の進め方」をご覧になり、学習時間のめやすや自主学習の説明を参考に、自分で計画的に学習できるように励ましてください。